

地域課題の解決に向けた取組

低コストで効率的な施業の推進に向けて

十勝西部森林管理署 東大雪支署

【はじめに】

十勝西部森林管理署東大雪支署は、十勝北部の上士幌町、新得町、鹿追町、土幌町にまたがる約一五万haの国有林を管轄しています。当支署管内は、日本百名山にも数えられるトムラウシ山や十勝岳のほか、ニペソツ山、石狩岳等北海道を代表する山々に囲まれた地域で、亜寒帯性針広混交林の広がる日本でも有数の森林地帯です。



トムラウシ山 (標高2,141m)

また、大雪山国立公園をはじめ、保安林や林野庁が設定する保護林、緑の回廊、レクリエーションの森などの多様な森林を広く有しており、森林の持つ公益的機能の発揮が特に期待される地域となっております。

また、これらの恵まれた自然の中では貴重な野生動物も多く見られます。

【地域の課題】

林業採算性の悪化から、森林所有者の造林意欲は依然として低迷しており、伐採後の造林が進まないことから、森林の持つ多面的機能の低下や、将来の森林資源の保続が危ぶまれており、そのことから、伐採跡地への確実な造林や間伐施業の実施などの森林整備を進め、人工林資源の適切な管理と持続可能な森林づくりを推進することが必要となっております。

【地域の課題に対する東大雪支署の取組】

地域の課題に対する東大雪支署の取組として「低コストで効率的な施業の推進に向けて」という重点取組事項のもと、伐採木を単木的に選定する定性間伐に対する列状間伐の優位性を地域に発信する取組を実施しています。

具体的には民有林の現状を把握している森林組合に、列状間伐に対する意見をアンケート方式による実施、合わせて列状間伐の優位性の説明を行うとともに、列状間伐の実施状況や、その理由な

どを伺いました。

また、伺った意見などは管内の自治体の民有林担当者に情報提供を行っています。



森林組合との意見交換

今回の森林組合からのアンケートでは、「優良木の生産ができない」「風倒被害の恐れがある」「主伐を重点にしているので、本来の間伐として実行するため悪い木や劣勢木を対象とした定性間伐を実施している」という意見や苗木の植栽に関して、具体的には国有林は保安林の指定施業要件の中で植栽を実施していますが、民有林ではより広い面積に植栽するため苗間を広げて植栽しているという意見も出ていました。

このことから、列状間伐の優位性などの、理解を深めるための丁寧な取り組みが必要であり、課題と考えています。

今後は、列状間伐の低コスト化、安全性、搬出の容易性、間伐効果など優位性の理解を深める現地検討会の開催、特に、森林組合での列状間伐実施がセロであったことを踏まえ、比較対象の観点から国有林と民有林の間伐現場の二箇所で開催することを検討しています。

【今後に向けて】

これまで東大雪支署として、簡易な作業工程・生産コストの算出と機械ごとの作業工程の把握が可能となる「工程管理システム」を使用し列状間伐と定性間伐の工程調査を実施してきました。



高性能林業機械での森林施業

今後についても、この工程調査と伐採後の蓄積調査等を行い、地域の課題に対する問題点の解決に向け取組んでいきたいと考えています。